

経済学

情報科学

看護医療

大学教員

両立のシナジー効果を研究にプラスに活かす

宮川祥子（慶應義塾大学看護医療学部 准教授）

研究の内容とやりがい

ヘルスケア情報学という新しい分野に取り組んでいます。ヘルスケアと情報というと電子カルテや手術ロボットなど病院内のIT化が思い浮かびますが、もう少し広い意味でのヘルスケアを考え、地域で暮らすさまざまな人々の日々の生活の中でのヘルスケアをITで支援する仕組みについての研究をしています。実際に、高齢者を中心とした市民モニターの方にご協力いただきながら研究を進めていますが、ITを活用したシステムをデザインするときには、そのような「誰が、どのように使うのか」という視点が不可欠です。机の上や実験室だけではなく、実際の現場から得られるこのような小さな発見を積み重ねて、生活者のためのヘルスケア支援モデルを構築していくというのは、とてもエキサイティングな仕事だと思っています。

仕事と家庭のバランス

妊娠中や子どもが生まれてからは思い通りのペースで研究ができなくなり、最初はとても落ち込みました。しかし、考え方を変えてみるとこれは多くの働くお母さんが体験していること。これを支援するような仕組みを考えるというのは私の研究テーマにもつながるのではないかと思います。問題が起きたときは「どういう支援があれば解決できる?」と「自分観察」をするようになりました。そういう意味では、「ワークライフバランス」というより「ワークライフシナジー」。子育て中だからこそ深められる考え方や共感できることを研究に活かせることが、私にとって最大の両立の醍醐味です。

進路決定のきっかけ

大学時代には、経済学を学んでいました。大学を卒業して就職するという選択肢もありましたが、目的ややり方があらかじめ決まった中で仕事をするより、新しい枠組みを提案していくほうが自分の性格にあっているのではないかと考え、大学院に進学しました。もともとコンピュータは好きだったのですが、ヘルスケア、福祉、教育といったヒューマンサービスと呼ばれる分野の情報支援に関心を持ったきっかけは、阪神淡路大震災でした。そのときは博士課程でデータベースの研究をしていましたが、現場の被災者やボランティアの情報支援を通じて、「情報はネットワークの中から動的に発生する」と感じて、インターネットを活用したコミュニティ支援の研究に舵を切りました。

進路選択についてのメッセージ

経済学、情報科学、と異なる分野を渡り歩いて、現在は看護医療分野に身を置いています。しかし、「人のつながりから得られる情報がその人をどう変えるのか」という根本テーマは私の中では変わっていません。進路を選択するときは、いわゆる「学部」の名前が何かということより、そこで自分がどのような知識やスキルを身につけたいか、そして、どのような仲間を得たいかということを大切に考えてほしいと思います。

<宮川祥子（みやがわしょうこ）プロフィール>

女子中学・高校 → 一橋大学経済学部 → 一橋大学大学院商学研究科(修士課程) → 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科(博士課程) → 慶應義塾大学看護医療学部着任 → 2006年12月 第一子出産、育児休職 → 2007年7月 復職



撮影：小暮誠